

4、戊辰戦争

四四 〔慶応四年三月仙台家中白河邦親公会津征伐の砌

白河家旧臣陣中見舞録〕

（表紙）

白河家旧臣陣中見舞録

白河上野邦親公慶応四年三月会津征伐ノ砌白河城御固トシテ白河御着トナルヤ昔日当家白河御在中ノ旧家臣三百年前ノ恩ヲ忘レズ再ビ当家ヲ白河ニ迎ヘント意気込ミソレゾレ家紋ノ着キタル武具ヲ以テ身ヲ堅メ御気嫌奉伺旁々御加勢スル者数多アリ即チ其ノ名ヲ録セリ

岩瀬鎌足明神 神主

西間木 筑前守

中畑新田村

渡辺 惣兵衛

同人忤 同 忠太郎

佐藤 弥作

中宿村 山寺 忠太郎

下宿村 山寺次五右衛門

同 長四郎

同 大四郎

同人忤 同 太重

大和久宿 芳賀市郎右エ門

（略）

双石村 郷 吉祥院

同 重四郎

駿河字子孫双石儀十郎

中畑村

山城守子孫小針発右エ門

矢吹宿 平山三郎右エ門

佐久間与右エ門

矢吹御本陣

横川 栄助

大野 佐市

佐藤 宇兵エ平

平山 善十郎

同 清治

同 喜左エ門

中畑大学介子孫

笹山 武左エ門

大隅守子孫 佐藤勇右エ門

星 吉右エ門

高田 清右エ門

（略）

大畑村 青木 政之助

同 治平

同 要之助

同 弥助

同 留四郎

同 治兵エ

須乗村 酒井弥市右エ門

小針 孫右エ門

（略）

神田村 藤井 太兵衛

同 金十郎

同 重次右エ門

同 新左エ門

同 辰次郎

以上

（名前は上段より下段につづく）

〔神田 藤井英由家文書〕

四五 [明治戊辰矢吹宿仙台中白河邦親公家臣猛虎隊

組織仙台勢に加はり合戦覚)

(表紙)

明治元年

当 六 月 中

当六月中探索方御用被 仰付難有奉存諸村探索并金策方御用相勤其外御預り地所塙并浅川両御陣屋江罷出軍事御用相勤上候事

一七月中須賀川宿より成田村出兵仕候処同宿江御引揚罷成且名生子左衛門殿と御打合被成白河上野殿旧臣御引立猛虎隊長と相成人數御仕立中三春并下手渡兩家共薩長勢ニ對シ候ニ付御預り地所川又御陣屋至急ニ罷成候間同所江出張仕大繼木村閨門相固メ罷有候内三春并下手渡軍事局江罷出軍事御用談判中大繼木村閨門相被御人數御引揚罷成候段下手渡迄早打ヲ以大急大急福島江引揚候様と之御沙汰ニ付右軍事方談判中空敷福島町江引揚候処夜四ツ時ニも候哉福島人數者不申及御手前御人數者人茂不居合町家者不殘戸ヲ閉テ人を不通一夜之宿ニ差支無抛町役附

江罷越候得者是以散乱仕居合之者無之故彼是苦吟候内其夜九ツ半頃瀬上宿江相越ハツ時ニ着仕同宿役附相尋宿等之儀相頼候得共夜更候得者宿々差支大難儀仕且兵糧之儀も前文之次第ニ而食事も不仕わらんじも結付而己其儘役付之宅江相臥候而翌朝漸宿ニ有付候得共川又強ニ而隊長見失候ニ付隊長之行衛相尋候処同日七ツ時頃瀬上宿江帰着罷成候ニ付八月朔日二日兩日同宿より岡部村川渡場ニ而番兵仕同三日福島ニ而戰爭仕候事

一八月八日隊長并兵隊一統御城下表罷登候処伊達江出兵被仰付同月十四日御城下出立日十五日岩沼町着仕候処同所於 御殿士分不殘拙者儀共ニ大番組御取扱被成下候旨被仰渡且隊長付添於御玄關前

屋形様

御曹子様

御目見被 仰付尽力可仕旨品々御意有之御酒御肴頂戴被

仰付重慮難有仕合奉存候且十六日同所出立越河宿着仕候処相馬口畑卷至急ニ付同所出兵被 仰付直ニ伊具郡金山町江九月朔日着仕同所宿陣中所々番兵付同月九日夜五ツ半頃同宿出立畑卷山御陣所江九ツ時着仕明七ツ半頃相馬地天明山江押登り曉十日五ツ時半頃迄戰爭仕四方敵ニ

不^レ困^レ迎も可^レ通様無之討死之覚悟ニ而決戦仕り一方切破り候間夫より椎木山麓に而兵隊纏^レり御本陣江引揚候勘弁ニ御座候^レ御本陣より火之出相揚り又々敵より鉄炮頻ニ被打掛同^レ処ニ而戦候内隊長并兵隊之者ニ討死手負等相出其他敵人数より太刀打等有之剩敵人数相増不得止事方より大場山之沢江引揚休息罷有候内又々敵人数押来り九ツ時頃右沢江鉄炮被打掛無^レ抛^レ峯江馳登り兵隊一統備^レ立直戦争仕候得共敵ハ大軍身方者三ヶ度之戦ニ御座候得者身体疲無是非右横左横と散乱仕候^レ処隊長より大声ニ而被呼返戦争之下知有之候得共空腹ニも罷成元より兵隊者小勢ニ而迎も戦勝之見詰無之候得共又々討死之覚悟^{（覚悟）}戦候^{（戦）}敵身方同士討相成俄ニ動搖之様子ニ而其間より切抜嶮難所之山中ニ而兵糧之手一円相統不申方より極々空腹ニ相及其外隊長始メ手負之者有之候得者敵地ニ可止様無之諸事無量艱難辛苦仕漸之事ニ而同日夜九ツ時頃金山町江引揚食事仕明ル十一日同所藤山御固メ被^レ仰付同^レ処御固中大急御引揚ニ罷成同日岩沼町江一宿仕十五日御城下着仕候^レ処直ニ原ノ町御固メ被^レ仰付且神命下より案内筋ハ勿論小田原御宮町通り迄一円廿日余り昼夜不怠廻勤仕候^レ且是迄

尽力仕候内六月晦日之夜為ニ官軍之拙者住宅焼捨ニ罷成家屋敷共ニ相失其外七人之家内散乱且今年八拾式才ニ罷成候老母有之候^レ処何方江散乱仕候哉定而艱難之経営ニ可有之候間右ニ付而茂拙者儀落着^レ処相定り次第老母計茂自分^レ処ニ引附老母江安心為致候様仕度勘弁ニ御座候且上野殿旧臣之儀皆々同家江御預ケ罷成候由右ニ付而茂上野殿より御用人御取扱之拙者ニ御座候間前文々通尽力仕候段何卒御吟味被成下上野殿江御預ケ罷成候様乍恐此段以書附奉願上候以上

白河上野殿旧臣

矢吹宿住居

平山良之進

花押

明治元年

辰十二月

〔矢吹町本町 平山壽満文書〕

解説 戊辰戦争に白河上野殿旧臣が猛虎隊を組織して仙台勢に加わり薩長軍と戦い各地に転戦した様子を伝えている。

四六 〔慶応四年四月矢吹宿より会律征討に付仙台藩

調達金証書〕

〔表紙〕

調 達 金 〔仮綴〕

調達金

一金九百五拾兩

本證写之

右者今般伊達家兵糧方へ前書之金子調達候処相違無之候返
濟之儀者来ル五月中下ヶ渡シ可申候以上

仙台軍事局

坂 本 大 炊 印

慶応四年四月

兵長

佐 藤 宮 内 印

兵糧奉行

戸 石 永之丞 印

陸奥国石川郡矢吹宿

仙台用達

熊 田 勘十郎 殿

借用證

一金百五拾兩也

右之金子借用候処実正也返済之儀者来ル六月廿二日迄無相
違返金可致依之ニ指入申処如件

仙藩

芝 多 賦三郎

慶応四年辰五月

遠 藤 功

石川郡矢吹宿仙台定宿

今出屋 勘之助 殿

借用金子之事

一金貳拾七兩也

右者今般拙者共帰藩候所太田原宿にて不慮之災難出来旅金
差支定宿之儀ニ付前書之金子借用候処相違無之候返済之儀
者国元着次第相届可申候為後日如件

慶応二寅五月

仙台家中北六番丁

国 安 彦一郎 印

陸奥国石川郡矢吹宿

今出屋 勘之助 殿

證書 写之

一天朝ヨリ今般伊達家へ会津征討被仰付当地へ出陣致候処
国許遠隔之為ノ軍米金差支罷在當時之間手配方用達方相
頼候者也

仙台軍事局

坂本 大炊

慶応四年辰四月

兵長

佐藤 宮内

兵糧奉行

戸石永之亟

石川大和殿旧一族

陸奥国石川郡矢吹宿

熊田勘十郎殿

調達金

一金千百五拾兩也 写し

右之金子伊達家軍事兵糧方へ調達候処相違無之候返済之儀

ハ国元ヨリ着次第相渡し可申候以上

仙台軍事兵長

佐藤 宮内印

慶応四年辰五月

兵糧方

戸石永之亟印

矢吹宿

熊田勘十郎殿

外五名へ

表書金員之儀ニ付今般御相調相成候処応負債版籍奉卷之廉
ヲ以各藩一樣藩債ニ被立下候処壬申之年ニ至り新立前之負
債ハ公債ニ不被立下候事ニ御達ニ罷成然ルニ旧負債数百万
も有之今日と相成候而ハ返弁之道無之情実陳述仕候処御洞
察御勘弁被下辱仕合拝謝仕候裏書ヲ以右御答仕候様御示調
ニ付如此御座候也

伊達家々扶

柴田 隆印

明治十年三月十四日

熊田勘十郎殿

〔本町 熊田俊一家文書〕

四七 〔慶応四年五月会津戦争に付郷夫人足議定書〕

慶応四年

郷夫人足議定之事

表端書

「会津戦争ニ付」

郷夫人足議定之事

一此度矢吹宿より郷夫人足差出し候様申来候所一日ニ忒人宛相勤候内替人間ニ会不申戰場ニ引出無難ニ相勤候而も一日ニ忒人前金沓兩ツ、無運之者怪我請候節者扶持米五俵ツ、村方より一代相送り候筈若し療治不相叶即死いたし候節者金三拾兩ツ、村方より差出候筈ニ取究申候議定違背致候者有之候ハ、田地取上村附合相除依之銘々連判議定一札如件

慶応四辰年

五月

清 八 辰 吉
多 七 兼 吉
徳次郎 清四郎

一助郷夫勤高八拾沓石三斗四升 堤村
一家数拾六軒
一人数拾六人

四八 〔慶応四年九月石川郡堤村軍夫役に付村高・人口

・家数届書〕

（軍夫役ニ付村高、人口、家数届書）

乍恐以書附奉申上候 石川郡

長百姓 清四郎
組頭 清右衛門
庄屋 辰三郎

茂三郎 岩 蔵
金 蔵 重右衛門
常 吉 元 吉
与右衛門 豊 吉
弥平次 喜 平
茂三郎 清右衛門

（名前は上段より下段につづく）

〔堤 吉田清作家文書〕

一人足六人又ハ三人

一貳人

一貳人

川辺村詰メ

白川郷夫

同所郷夫替リ

右之通書上申処相違無御座候以上

慶応四年九月

右村

長百姓

兼吉 印

組頭

清四郎 印

同

清右衛門 印

庄屋

辰三郎 印

軍夫

御役所

〔堤 吉田清作家文書〕